

カタトニー（緊張病 患者の独白、凜としたみずみずしい筆致に衝撃を受けました。東江一紀先生三十七歳のときの訳書です。その非凡な才能には改めて驚かされます。

峯村利哉

『ストリート・キッズ』

ドゥン・ウィンズロウ 創元推理文庫

下訳者として関わらせていただき、翻訳の楽しさと厳しさを教わりました。完本を読んだときの無力感は忘れられません。一作品としても教科書としても永遠のバイブルです。

柳沢伸洋

『ショールの女』

シンシア・オジック 草思社

美しく抑制の効いた文体が切なさを倍加させる。言葉の持つ力を改めて認識させてくれる一冊。すぐれた翻訳の役割とは、こういう作品の紹介にあるのでは、とさえ思えてしまいます。

内藤文子

『アイウ・パリーの笑えるコンピュータ』

デイウ・パリー 草思社

『コンピュータ』が出たころ書かれた本だけど、パソコンに振り回される人間を笑いのめす精神は現役。その諧謔精神と親父ギャグに笑いつつ、遊びを支える訳文のキレにうなるのです。

那波かおり

『フレシヤス』

サファイア 河出文庫

九十八年初版時の書名は『ブッシュ』。十六歳のハーレムの少女が読み書きを覚え、自尊心を獲得していく。主人公の一人称語りの成長と変化に圧倒される。体温と痛覚をもつ訳文。

**サンケイ文庫**

氏の名前を初めて意識した作品。氏のキャリアの初期の仕事なので、来る者は拒まずだったのかもしれないが、今になって考えしてみると、けっこう楽しんでやったのではないかと気がする。そういう人だよ。

芹澤忠

『**訳者あとがき**』(ドン・ウインズロウ) 訳漢で満れるわけにはいかない』より)

**創元推理文庫**

訳された作品はもちろん、作品の雰囲気に応じて自由自在に書き分けられる、ときにおちやめどときに骨太で滋味滋養たっぷり「訳者あとがき」も愉しみでした。「校挙にいとまがなければ、ただの『きよ』だ」なんて……エンタテインメントの訳者たるもの、読者に愉しんでもらえる機会は決して逃してはならない、教えていただいた気がしています。

佐竹裕

**『黄泉の河にて』**

ピーター・マシーセン 作 草鹿社

原文同様に研ぎ澄まされた訳文で、刊行予定のないまま訳し終えられると一篇ずつ訳稿を送ってくださった、個人的に思い入れのある短編集。生前最後に刊行されたこともまた感謝深いです。

若林踏

**『犬の力』**

ドン・ウインズロウ 角川文庫

『犬の力』を読んでいる時に感じた、全身の血が荒ぶるような感覚が忘れられません。あのような凄まじい小説に巡り合う機会を与えてくださったこと、心より感謝いたします。

**その5・翻訳家篇**

高橋恭美子

『普及版 ハイラム・ホリデーの大冒険』

上・下

ポール・ギャリコ 復判ドットコム

大好きなギャリコのデビュー作が大好きな東江さん訳で復刻！ 本當にうれしかった。東江さんも、囚人生活を終えて冒険の旅に

出たのかな。

吉澤康子

**『黄泉の河にて』**

ピーター・マシーセン 作 草鹿社

東江先生には、翻訳修行の仕上げをしていただきました。明解な説明と、言葉に対する熱い思いが忘れられません。本書は純文学の短編集で、翻訳後、二十数年ののち、先生が亡くなる直前に刊行されたものです。

河野万里子

**『ストリート・キッズ』**

ドン・ウインズロウ 創元推理文庫

本好きのニールと片腕の『父さん』の間に通うあたたかさ、いきいきした会話のウィット、軽やかで知的なお訳——読書と仕事と人生を愛しつづけた東江さんの、笑顔のような一冊。

布庭由紀子

**『狂気のやすらぎ』**

ポール・セイヤー 草鹿社

登場人物も読み手も飲み込まれていきます。麻薬戦争という凄惨なテーマですが、かけがえのない読書体験ができた作品です。

名古屋読書会・大矢博子

『ストリート・キッズ』

『仏陀の鏡への道』

ドン・ウインズロウ 創元推理文庫

『ストリート・キッズ』に明えまくり、『仏陀の鏡への道』に痺れまくり。嗚呼、わが青春のニール・ケアリー。あとにもさきにも『金革』で泣かされたのはこれだけです。

関西読書会世話人一同

『ストリート・キッズ』

ドン・ウインズロウ 創元推理文庫

三年前の読書会。黄ばんでいたり真新しくつたりのぞ『ストリート・キッズ』を繰りながら、恋や師弟や文学やハンバーガーについて歓談したことを追想し、感謝を捧げます。

福岡読書会・三角和代

『ストリート・キッズ』

ドン・ウインズロウ 創元推理文庫

これぞ文芸翻訳と感動し尊敬した一冊がドン・ウインズロウ『ストリート・キッズ』。東江さんの訳文はわたしの憧れでした。心よりご冥福をお祈りいたします。

その4・連載・イベント担当有篇

三橋暁

『仏陀の鏡への道』

ドン・ウインズロウ 創元推理文庫

生憎な中に瑞々しさ満ちる主人公、しなやかな物語、軽妙な語り口など、ウインズロウの持ち味を引き出し、引き立たせた名訳。『ニール・ケアリー』シリーズは、東江一紀訳以外考えられない。

日暮雅通

『天の力』

ドン・ウインズロウ 角川文庫

東江さんが下訳時代に搾取された相手の『ダヌ師匠』は、エージェント勤務時代の僕のクライアアント。と知って以来、東江さんの本が売れるたびに喜んできた。これも

その一冊。

♪ 2017.11.14

『フレシヤス (巨題ラッシニ)』

サファリア 河出文庫

虐待され読み書きも出来ない主人公。言葉に対する意識の変化が文体で表現されるのですが、ひたすらその翻訳に圧倒されました。

堺三保

『砂漠で溺れるわけにはいかない』

ドン・ウインズロウ 創元推理文庫

東江翻訳と言えば、なんといってもドン・ウインズロウとリチャード・ノース・パターソンではないかと思うのですが、中でもウインズロウのニール・ケアリーものの軽妙さが好きでした。ここでは完結編を挙げておきます。

鎌田三平

『レモ 第1の捕鯨』

ウオーレン・マーフィ、リチャード・サビ

ア

## その3・各地読書会篇

札幌読書会・榎本卓史

## 『ピク・トラブル』

デイヴ・パリー 新潮文庫

ウィンズロウやバタースンも大好きですが、著者の謝辞で銀堂巨から東江さんの訳者あとかきまでノリにのっているデイヴ・パリーの『ピク・トラブル』も忘れがたい一作です。

仙台読書会・葎野正徳

## 『ストリート・キッズ』

ドン・ウインズロウ 創元推理文庫

素晴らしい翻訳作品を世に送り出していたとき、ありがとうございます。心よりご冥福をお祈りいたします。

福島読書会・飛鳥宗司

## 『エリー・クラインの収穫』

ミッチェル・スミス 新潮文庫

ミッチェル・スミスを日本に華々しく解き放つてくれた東江氏。ヒロインであるエリーの「シヤム猫の泣き声のようなおなら」

は超弩級の翻訳だと今でも信じて止まない。

金沢読書会・北田絵里子

## 『仏陀の鏡への道』

ドン・ウインズロウ 創元推理文庫

「決まり〇玉」という遊び心ある訳語が燦然と輝いていますが、これはあらゆる配慮の行き届いた訳文中に投入されてこそ、このバランスは永遠の憧れです。

埼玉読書会・東野さやか

## 『餃とジュース』

ロバート・キャンベル 文春文庫

ウィンズロウにするかバタースンにするかと迷ったけど、やはりこれ。登場人物ひとりひとりの描写がうまくて、とにかく楽しい犯罪群像劇。訳者あとかきも楽しい。

千葉読書会・高橋知子

## 『ストリート・キッズ』

ドン・ウインズロウ 創元推理文庫

印象深いお訳書の数々。中でも『決まり金玉』のニールくんは忘れられません。東江さんの新たな名訳に出会えないのは淋しい

かぎりです。(ご冥福を心よりお祈り申し上げます。)

東京読書会・島村浩子

## 『仏陀の鏡への道』

ドン・ウインズロウ 創元推理文庫

早すぎる(。逝去が本当に残念です。先生ご自身の名訳はもちろん、門下生の方々のすばらしいお仕事に触れるたび、翻訳出版界における先生の存在の大きさを感じます。

西東京読書会・松井里奈

## 『フランキー・マシンの冬』上・下

ドン・ウインズロウ 角川文庫

殺し屋と翻訳家、職種は違えど、フランキーと東江先生には相通じるものがあったと思います。仕事には厳しく、人には優しく、頑固でもあり、純情でもあり……。甘辛な男たちに敬杯。

横浜読書会・岡本真吾

## 『天の刃』

ドン・ウインズロウ 角川文庫

序章から襲い掛かる圧倒的なパワワーの渦に、

## その2・翻訳ミステリー長篇篇

鈴木忠志

### 『ストーナー』

ジョン・ウイリアムズ 作品社

貧しい農家に生まれた平凡な英文学教授の半生を、淡々とした筆致で描いて心に染み入る作品。これが東江さんの遺稿になったという暗台にも思いを致さずにはいられませぬ。

田口俊樹

### 『犬の力』

ドン・ウインズロウ 角川文庫

強靱な文章でないと、これだけスケールの大きな作品の屋台骨の強度たりえない。もちろん原文あつてのことだが、この強靱な訳文、実に見事だった。日系アメリカ人の台詞の訳し分けにも感服。

越前敏弥

### 『フレシヤス』

サファリア 河出文庫

(文庫化時に『ブッシュ』(河出書房新社)

から改題)

十六歳の黒人女性を語り手とする文章の圧倒的な力に、翻訳の魔術を感じた一作。

加賀山卓朗

### 『駁とジユース』

ロバート・キャンベル 文藝文庫

楽しかった本、学ばせてもらった本をあげれば切りがありませんが、忘れられない一冊は、ロバート・キャンベルのご機嫌な悪漢小説『駁とジユース』。中身も訳も大好きです。

白石朗

### 『子供の眼』

リチャード・ノース・パターソン 新潮文庫

代表作は『罪の段階』だが愛着があるのはこちら。小説巧者のサスベンスフルな語り口を一切損なわず、翻訳を意識させないエンターテインメントに仕立てた臂力に感嘆。

横山啓明

### 『ストーン・シテイ』

## 『エリー・クラインの収獲』

ミッチェル・スミス 新潮文庫

最初に読んだ東江作品は、『エリー・クラインの収獲』匂い立つような訳文に酔いしれました。同じM・スミス『ストーン・シテイ』も過酷な世界をみごとな日本語に、早すぎる死、ほんとうに残念です。

上條ひろみ

## 『仏陀の鏡への道』

ドン・ウインズロウ 創元推理文庫

東江さん訳のウインズロウ節はリズムのよさが癖になります。ニール・ケアリー・シリーズは全部好きだけど、本書は衝撃的な訳語でとくに印象に残っています。

# 東江翻訳のベスト本を選べ！ インターネットサイト「翻訳ミステリー大賞シンジケート」より

## その1・書評七福神篇

北上次郎

### 『罪の殺産』上・下

リチャード・ノース・パターソン  
新潮文庫

この小説にいたく感動した私は当時、リチャード・ノース・パターソンの次の作品の翻訳はいつ出るんですか、とお会いするたびに尋ねたことを思い出します。

霜月蒼

### 『ポピーZの気高く優雅な人生』

ドン・ウィンズロウ 角川文庫

三分の一ほど読んだところで驚愕したので、そこまでの全文章が現在形だったことに気づいて、あの衝撃、忘れられない。かくも自然な現在形の文章を日本語で紡ぐのは天才にしかできない。それが東江一紀氏だった。

千街晶之

### 『殺人探光』

フィリップ・カー 新潮文庫

東江氏訳のフィリップ・カーというトベルンハルト・グンター・シリーズが有名だが、敢えてノン・シリーズを、近未来サイコ・サスペンスと哲字論議の組み合わせが印象的。

杉江松恋

### 『ごみ溜めの犬』

ロバート・キャンベル 二見文庫

最初に東江さんに注目した作品です。現在形で統一された文体、刑事や探偵ではなく住民の世話を焼く政党の地区班長が主人公という変な設定。翻訳者の技巧が冴えた一冊でした。

吉野仁

### 『グリーンリバー・ライジング』

ティム・ウィロックス 角川文庫

R・N・パターソンやドン・ウィンズロウなど多くの傑作が並ぶ東江さんの訳書中、圧倒的なパワーで胸をわしづかみにされたのが、狂気に満ちた本作だ。感謝して合掌。

川出正樹

### 『ステーション』

マイケル・フラナガン 角川書店

「絵と言葉が、チェロの調べのように、深く、懐かしく、心の奥底を揺さぶる」という訳者あとがきの名文に付け加える言葉なし。架空の鉄道を巡るこの物語を埋もれさせたくない。

酒井貞道

### 『ストリート・キッズ』

ドン・ウィンズロウ 創元推理文庫

東江一紀さんの訳文は本当に素晴らしい。彼の手にかかれれば、作品の魅力が行間から吹きこぼれる。真の名人だったと思う。だが彼はもういない。それがとても悲しい。

翻訳家、東江一紀は、2014年6月21日に62歳の若さでこの世を去りました。

もっともっと、訳してほしい本がたくさんあった……。

そんな残念な思いはいまだに消えませんが、ふりかえればそこには、東江さんの遺した豊饒なる訳書の海があります。

そう、わたしたちはまだ、東江一紀を知り尽くしてはいない。

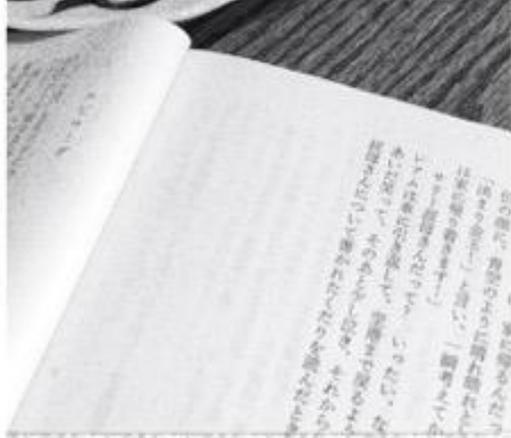
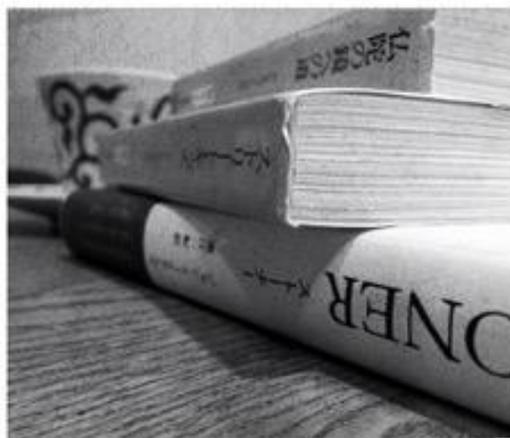
自分たちも含め、もっと多くの人に、もっと多くの訳書を読んでほしい。

そう思って今回、「ことばの魔術師 翻訳家・東江一紀の世界」と題するブックフェアを開催することにいたしました。

この小冊子では、東江一紀の世界をより身近に感じていただけるよう、簡単な年譜、膨大な数の訳書のリスト、原文つきの名訳集、愛書家たちによるベスト本と追悼コメントをご紹介します。ごゆっくりお楽しみください。



表紙・裏表紙撮影協力・東江さんお気に入りの「堀口珈琲」世田谷店



ことばの魔術師

—

翻訳家・東江一紀の世界

あがりえかずき

